

## 令和5年度第1回すみだタウンミーティング 議事録（要約）

テーマについて（新しい時代の子どもの居場所とした経緯）

子ども時代は誰もが経験しているため、今、子育てを行っている世代だけでなく、学生やご年配の方など、誰にとっても身近なテーマだと考えた。また、魅力的な子供の居場所をつくることは、子育てしやすいまちに繋がり、墨田区が掲げる住み続けたいまちの実現に向けての大きな一歩だと考えた。子供を取り巻く環境は変化し続けている。また子供は未来の象徴でもある。未来の墨田をよりよくしていくために、地域の皆さんと一緒に議論を深めていきたい。

区長挨拶

ポストコロナという状況の中で、令和5年度第1回目のタウンミーティングを開催する。今回、企画運営委員の学生に取り仕切ってもらいテーマも設定いただいた。皆さんのいろいろな角度から意見をいただき、区政に反映していきたい。

私は4月23日に3期目、9年目の区長として仕事をさせていただくこととなった。優先課題として、切れ目ない子育て支援、環境を充実させ笑顔あふれるまちづくりを掲げている。子育て支援に関しては、1期目から掲げており、例えば待機児童等の課題についてはゼロに近づいたりしているが、今回、「子どもの居場所」という良いテーマを学生さんに挙げていただいた。大人との接触や子ども同士の交流が大事な時代であると思うが、そこを子育て支援策に取り入れていくことが、墨田区独自の対策、子どもたちや保護者の皆さんに喜んでいただける支援策となるのではないかと。タウンミーティングを楽しんでいただき、いろいろなご提言をいただきたい。

他の自治体の事例紹介（企画運営委員の学生が調べて発表）

東京都品川区

特別養護老人ホームで子ども食堂を開催。子ども食堂の残飯を腐葉土にして、地域菜園として整備することで、子ども食堂の食材を栽培している。循環システムの構築。

埼玉県戸田市

子どもの第3の居場所として、生活習慣づくりや学習支援を目的とした場を提供。

広島県尾道市

家庭そのものの自立を目指している。学習支援や検定試験対策、自炊体験等、親子の交流会等を実施。貧困の連鎖を断つために、親子と関わりながら家庭そのものの自立を目指す

3つの事例に共通していること 「第3の居場所 = サードプレイス」

サードプレイスとは、自宅や学校、職場以外で自分の心がゆったりとリラックスできる場所のこと。サードプレイスを意識してグループワークを行うと良いアイデアが生まれるかもしれない。

## グループワーク1 移り変わる「子どもの居場所」

「子どもの居場所」が、過去から現在にかけて、どのように変遷してきたか、グループで共有する。

### グループB:

グループ内にいろいろな世代がいた。未来の子どもの居場所を考える方で発表する。

子どもの漫画カフェや駄菓子屋など、不登校の子どもでも、誰でも参加しやすいサードプレイスづくりが出来たら良い。様々なサードプレイスの中から、子どもが選んでいける墨田区になるとよい。

### グループF:

Fグループには空襲を経験された方から大学生まで様々な世代がいた。上の世代の居場所はもんじゃ焼き屋さん等が挙がった。大学生はDS(ゲーム機)を空き地や公園、あるいは学校で遊ぶという話が出たが、今は学校に規制がかかっている。家にいたくない子どももあり、携帯を持っている子どもはSNSが居場所になっているかもしれないが、携帯も無い子どもは居場所が無い。図書館とか公民館のような居場所はたくさんあるが、そもそも家を居場所と思っていない家庭も多いと感じた。

### 個人発表:

- ・昔は空き地や原っぱが多く、その特徴として、何に使っても良い、活用用途が定められていない場所だった。現代は、何に使っても良いという場所が少ないのではないかな。
- ・現代だとスマホを持っているので、一般人がやっているライブ配信、YouTube、TikTok、Instagram、オンライン上に居場所を求めているのではないかな。

### 区長:

参加したBグループでは、墨田区生まれ、墨田区育ちの方が3人いて、世代は違えど同じような話が出た。近所のおじいちゃん、おばあちゃんが見守ってくれるので、公園や友達の家で安心して行けた。当時は下町特有の受け入れ体制や見守り体制が自然に備わっていたのではないかな。

空き地、原っぱの話に関して、今は立ち入り禁止が多い。昔は外遊びも自由にできたが、今は遊ぶ場所も限られ、居場所という意味がだいぶ変わってきているのかなと思う。なぜなら、SNS等の場所でないが時間を過ごせる場、それが居場所という捉え方がある。

ゲームに関しては、楽しみながら発想を豊かにし、そこからゲームを作る人を目指すなど、ゲームによって成長していくこともあるかもしれない。単なる物理的な場所としてではなく、いろいろな体験を積み、仲間を作って、ある時はおじさんから怒られたり、おばさんに優しくしてもらったり、あたたかさに触れて、将来自分もこんな大人になりたいという体験をしていくことが、子どもたちの成長にとって大切なことだと思う。

## グループワーク2 未来の「子どもの居場所」を考える

これからの「子どもの居場所」として、どのような居場所があったら良いか、子どもや保護者の視点からアイデアを出し合う。

### グループA:

フリースペース、メタバース、複合施設について特に深く話した。子どもが遊んでいく中で、いろいろな場所に行けない・行かなくても、一つの場所に行けば、本を読んだり遊んだり、様々なことができる複合施設があると良い。プレーパークが多くの場所にできているが、昔だったら大人に怒られそうな遊びでも、大人の方のサポート等により、できるようになっている場所もあるので、五感を使った体験学習ができる場所が増えていくと良い。

### グループC:

現状の居場所は、たくさんあるが認知されていない。

いじめや不登校などの本当に困っている方には、居場所があっても情報格差があり役に立っていないのではないかと。お年寄りの方と子ども、大学生と子どもなど、縦のつながりを大事にすることで墨田区すべてが居場所になると良い。

SNS や学校の校庭など、場所はあるが認知されていないのではとの話が出た。具体策として、墨田区には下町の工場などがあるので、職業体験のような機会があれば、伝統文化の継承に困っている方ともつながりができる。また、何でもしていいカフェや、寺子屋みたいな場所があると良い。

### 区長:

Aグループに参加して、例えば大学生の若い世代の発想で、SNSの活用方法等、参考になる話を聞いた。SNSはそれ自体が居場所であり、そこを求めのお子さんたちもいるのではないのか。私は区政を運営する側なので、複合施設や子ども食堂などのリアルの場について考えてきたが、SNSの活用の話を聞いてよかった。

ただ、その中でもリアルの良さをしっかり突き詰めて、五感を使った体験学習という意見もあった。複合施設で、例えば体も動かせたり、勉強したり、本を読んだり、ゲームもできる場や、自由度がしっかりあった形の中で、プレーパークやフリースペース等を新たにつくっていくという意見を伺ってよかった。中にはコロナ禍でお子さんが生まれて、この2年間のコロナ禍での苦労がありながら、児童館や子育てひろばなどの施設で、リアルな交流があったり、相談したり、意見交換をして少し助けられたという話もあり、行政として、こういった場所の機能拡張であったり、良さを際立たせていかなければならない。

Cグループについて、いくつかキーワードがあった。今日の参加者にも、区の中で頑張っている方がいらっしゃるが、認知されていないという課題がある。私も、子ども食堂という、食を通して子どもたちと触れ合いながら、地域で子どもを育てるという活動が14か所に増えたということを知ったが、まさに、情報格差があり、必要とされる方に必要な情報が届いていない、マッチングしていないことについては、参考になる意見だった。

また、子ども食堂や児童館などが連携、協力していくことの大切さについて。職業体験も授業としてはあるが、せっかく工場がたくさんあるなら、子どもの居場所として捉えるということも大変参考になると思った。大人と子どもの縦のつながりや、保護者同士、子ども同士の横のつながり、そこから生まれる出会いや体験の拠点となるものがあつたら良いなと思った。大変参考になるキーワードをいただけたと思う。

#### グループD：

子ども食堂等を始めたくても、どのように運営していくか、資金や人や場所などがネックになって開催できない。フードロス問題もあるが、横の連携により上手に活用したり、企業等ともつながれたら、運営や資金面の解決にもつながっていくのではないかな。

他には、キッザニアのような職業体験が気軽にできる場所があると良い。緑小学校では放課後事業を近い形で実施しており、地域の方たちの力を借りながら、昔の遊びをやってみたり、講師の方を呼んでスポーツスタッキングをやってみたりしている。その中でもやはり人手不足や資金面など、どこまで地域の人をお願いできるのかが課題となっているが、区内の学校全てで実施できれば子どもたちがいろいろなところに遊びに行ける。

情報格差について、様々な場があっても認知されておらず、自らインターネット等で調べないとわからない情報が多く、埋もれてしまっている。PTAの行事でも、参加者は決まった子どもたちが多く、来ない子どもは来ないので、声の届かない子どもたちにどう届けたいかが悩みである。ネットワークがあっても、仕事や子育てで忙しく、情報を探りに行く時間が取れずに孤立していくママたちもいる。何かぱっと目にできるような形で、興味があるようなことが自分の地域で開催できるとよい。また、お年寄りも孤立している方も多いため、お年寄りと子どもがマッチングできるようなシステムを区が作り活用できると良い。

#### グループE：

ゲームセンターなどの人工的な場所が子どもの居場所になってしまっていることが多いので、もっと野生を取り戻してほしい。火遊びは子どもが夢中になれる遊びだと思うので、火を使える場所があると良い。

木登りも実際に子どもが登ったら、近所の方に注意をされ学校にも報告され、学校全体として登ってはいけないということになってしまったという例があった。野生を取り戻せる場が少なくなっていく一つの原因に子どもが心配だからという話があるが、実際は大人の責任の所在がわからず、何かが起こったときに責任を取れる人がいないから、その場所自体を無くすという話になっているのではないかな。

野生を取り戻すにはその場所を区外に求める方法もあるため、そういった場所に行く支援金等を出したらどうか。ただ親としては、休日に時間を作って申請して連れていかななくても、身近にあることがより嬉しい。

そこで、ゲームのリアル化を提言する。大人が一方的に子どもの遊び場や居場所を提供しても、子どもが本当に興味を持つのか。そういった観点からゲームのリアル化を思いついた。例えば子どもに人気のゲーム、自由に家を作ったり冒険できたり畑を掘ったりできる「マイクラフト」、

水鉄砲でインクを飛ばし合う「スプラトゥーン」等を実際にやれるようにしたら良いのではないかと。水鉄砲や化石掘りを疑似体験してみたり、公園など、五感をフルに使える場を提供することで、自然と子どもも興味を持って体を動かせることができるのではないかと。こういった体験を通して子どもの心も成長できることが、保護者にとっても安心できる嬉しいことなのではないかと。

区長：

子ども食堂や子どもの居場所を拠点としてやっている方がいらっしゃる。その運営に関して、区としてどのように支援していくかは究極のテーマであると思う。子ども食堂も14箇所に増え、その中で横の繋がりもあったり、やり方に違いもあったりするかと思うが、私たちが実態を把握して、何ができるのか対応していく必要があると思った。

緑小学校で行っているみどりっこクラブは、非常に先進的な取組で歴史もある。学校施設を活用しながら地域の方々が参画して、勉強を教えたり、体を動かしたり、素晴らしい取組である。どこの学校でもできるわけでないが、参考にしながら、学校単位で良い所を取り入れていけると良い。

情報格差や、マッチングができていないというのも、おっしゃる通りである。平日の月曜日～金曜日までの居場所、また土日も含めた体験的な居場所、更には夏休みなどの期間の居場所についても考えていかなければならない。

最後に、高齢者との交流については、墨田区でも子ども食堂などで、高齢者の皆さんと一緒にご飯を食べながら交流を深める取組をさせていただいているところもあるが、多くの子どもたちが体験・経験をすることが大切だと思う。高齢者の方のお話を子どもたちが聞くということは、今年関東大震災100年の年でもあるが、そういった話を継承していくという意味でも非常に大事な取組だと思う。

「野生を取り戻す」という言葉が刺さった。私は役所の立場で安心・安全を優先してしまうが、「野生を取り戻す」というのは非常に面白い表現であり、本質的なところだなと思った。火を使える場所はその通りで、火をおこす等の体験を今の子どもたちにどう感じてもらえるかという興味もある。

墨田区は公園でも花火ができ、火の怖さも学べる。火が熱いということを経験することが大事である。水鉄砲の話も面白く、心配な部分もあるが、その殻を少し破って野生を取り戻すために、区政の中でどんなことができるかヒントをもらえたような発表であった。

区長総括

本日は居場所がテーマだったが、場所を提供してくれるところがあれば、区外に行ってもいいのではないかとヒントもあった。また、区内でも「あそび大学」という、子どもたちが自分たちで運営しながら居場所をつくっていき、大人はヒントを与えながら外から見守るという取組もある。今日参加された皆さんと新たに、子ども同士が連携して、意見交換や交流をして、子どもの発案で大人が見守るというものができたら良いと思った。大人が子どもを見てあげる、育ててあげるという感覚から、こどもまんなか社会という、子どもから直接意見を聞いてそれを反映さ

せようという取組に入っていく。子どもだけでタウンミーティングをして意見を聞くということもあるが、子どもだけではうまく回らず具現化できないため、サポーターがいることが大事である。組み合わせによっているんなことが実現できそうだなと思った。一期一会の機会かもしれないが、大人との触れ合いの中で子どもが学んだことは、成長の中でインパクトがあり覚えていると思うので、子どもたちに、墨田区であんな大人がいたな、なりたいなとか思えたり、体験を通して感謝の気持ちを持ってもらえるような導きも大事である。

また、支援のあり方を考えなくてはならないというのは、一過性で良い取組もあり、新しい時代の新しいやり方もあるが、継続は力なりと感じた。継続していくのは本当に苦しく、理念があってもなかなか続けられないという中に、子どもたちのために踏ん張り、理念に立ち戻りながら継続する事業もあるので、この継続性を追求しながら、我々のできることを考えていかなければならない。非常に短い時間だったが、良いご意見をいただいた。

大学生も素晴らしかった。鍵っ子という自分の体験から意見をいただけたり、このタウンミーティングの幹事もやってくれた。大学生のフレッシュな気持ちや考え方もぜひ取り入れたいと思った。

令和5年度第1回目のポストコロナにおけるタウンミーティングに、遅くまで参加いただいたみなさまに感謝を申し上げます。またご意見を伺える日を楽しみにしている。